

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドットドット立ててく4

国立市立国立第七小学校

平成28年10月11日 NO.55 (355)

オー君 「ねえねえ、モンタ博士。高尾山は『自然の宝庫』で、すごい所だということ
はわかったけど、かんたんに言うと、どういうことですか。」

モンタ博士「そうだね。高尾山にはいろいろな環境があり、植物の種類が多くて、日本全
土で見ても、世界的に見てもすごいということなんだ。」

花ちゃん 「高尾山にはどのくらいの植物があるのですか。」

モンタ博士「ある資料によると、1598種もあるんだ。」

オー君 「ふーん。それがどうすごいのですか。」

モンタ博士「そうだね。下の表を見てごらん。」

	高尾山	屋久島	イギリス	国立市
植物の種数	1598	1723	1859	860
面積 (ha)	2600	50488	24482000	815
面積何倍か	1倍	約20倍	9400倍	0.3倍
高さ (最高)	599	1935	1344	74

世界遺産である日本の屋久島は、自然がとても豊かな所で、そこでの種類数
は1723種なんだ。」

オー君 「やっぱり屋久島の方が種類数が多いですね。」

モンタ博士「でも、ここで注意して見てほしいのは、面積なんだ。高尾山は2600ha
(1haとは100m×100m)だけど、屋久島は50000haもある。
つまり、面積は屋久島が20倍も大きいということなんだ。」

花ちゃん 「高尾山は面積が小さい割には、たくさんの植物が見られる貴重な山とい
うことですね。」

モンタ博士「そのとおりさ。イギリスも例として表にあるけど、イギリス全土で1859

種。面積は24360000haで、屋久島の9300倍もあるけど、それほどちがいはないということだね。」

オー君 「それだけ、高尾山は、植物の種類が多いということですね。」

モンタ博士 「そのとおりだね。植物の種類数が多いということは、昆虫もたくさんいるだろうし、は虫類、両生類、鳥類、哺乳類などもいろいろいるんだ。それで、『自然の宝庫』と言われるのですね。」

花ちゃん 「もともと日本は、生き物がたくさんいる国なんですね。」

モンタ博士 「そうだね。日本の植物の種類数は6000種以上とされているんだ。日本は森の国とも呼ばれているんだよ。」

オー君 「私たちの国立市はどうなんですか。」

モンタ博士 「よく気がついたね。自分の地域を知ることはとても大切だ。国立市は、城山やハケなどがあるから、東京都としては、自然も豊かな所だと言えるね。」

花ちゃん 「モンタ博士、ところで、どうして、植物の種類数が多いのですか。」

モンタ博士 「そうだったね。ついお話が高尾山からそれてしまって、ゴメンゴメン。」

オー君 「いろいろな環境があるというお話でしたが、かんたんに言うと、どういうことですか。わかるように説明してください。」

モンタ博士 「右の日本地図を見てごらん。何か気づくことあるかな。」

花ちゃん 「白い所とうすい黒い所とまっ黒い所がありますね。」

モンタ博士 「白い所は、日本のあったかい所で、常緑で広い葉っぱの木が生える場所で、うすい黒い所は、ちょっとあったかい所で、落葉する広い葉っぱの木が生える場所で、黒は寒くて針のような葉の木がある場所なんだ。」

オー君 「それと高尾山とどう関係なの。」

モンタ博士 「むずかしくなってゴメン。」

つまり、高尾山は、いろいろな森があるから、植物も多いということなんだよ。」

